１年間の目標	取組の内容	
	具体的な方策	評価の観点
(1)評価のあり方についての理解を深めるとともに、具体的な評価規準を明確にすることで、指導と評価を一体化させた教育活動に各教科で取り組む。 (2)個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指し、一人一台の端末を有効に活用した組織的な授業改善に取り組む。	(1)単元ごとに生徒の学習を評価することにより、生徒が自身の取組を振り返るとともに、教師からのフィードバックを受け、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。 (2)効果的・効率的に評価を行っていく観点から、ICT を適切に活用することで、生徒の様々な活動や状況を記録したり、共有したりする。	(1)評価や振り返りによって、生徒の学習をより充実させることができたか。 (2)ICT を適切に活用することができたか。
(1)各成長段階にある生徒が主体的に課題解決できるよう、スチューデント・メンター制度を最大限に活用し、予防的・積極的支援の更なる充実を図る。 (2)社会で活躍するために必要なリーダーシップとチームワークの醸成を図る。	(1)スチューデント・メンターとして、新入生へのサポートを再開し、新たな支援体制を生徒が主体的に構築することで、誇りと自己有用感を高められるよう支援していく。 (2)中高一貫の６年間の縦のつながりを活かしながら、仲間と課題解決する場面を多く設定し、自分の役割を認識することで、リーダーシップとチームワークの醸成を図り、自己肯定感を育成する。	(1)スチューデント・メンターとして、新入生へのサポートを再開し、新たな支援体制を生徒が主体的に構築することで、誇りと自己有用感を高められるよう支援していくことができたか。 (2)仲間と課題解決をする活動を通して、チームの中での自分の役割を認識し、自己肯定感を育てることができたか。また、６学年の縦のつながりを意識した活動と、３年生のリーダーシップの醸成を図ることができたか。
(1)一人一台の端末を有効活用し、大学や外部機関との連携を図りながら、効果的なキャリア教育実践プログラムのさらなる充実を図る。	(1)-a 生徒に情報提供しやすい環境の整備に努めるとともに、進路資料の作成をすすめる。また、大学ホームページ等の有効活用を指導しつつ、的確なタイミングで進路情報を生徒に発信する。 (1)-b 総合的な学習の時間､総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進める。外部機関連携先のリストを作成し、校内での情報共有、有効活用を図る。	(1)-a 生徒に情報提供しやすい環境の整備に努めるとともに、進路資料の作成をすすめることができたか。また、大学ホームページ等の有効活用を指導しつつ、的確なタイミングで進路情報を生徒に発信できたか。 (1)-b 総合的な学習の時間、総合的な探究の時間の今後のあり方について検討を進めることができたか。外部機関連携先のリストを作成することができたか。
(1)ホームページ等を活用し、生徒の活動の様子を広く、多角的に即時性をもって保護者・地域へ発信する。 (2)生徒が自ら学びの場を地域に求め、地域社会に貢献するような活動を推進する。	(1)本校の生徒・保護者や本校に関心のある小学生とその保護者が、本校の教育活動の様子がわかり、理解を深められるよう、学校行事や生徒会活動での生徒の様子、部活動での大会結果を、ホームページを活用して適時配信していく。 (2)交流会、地域清掃について、計画段階から生徒による交流を進め、学校と地域のつながりを深めていく。	(1)学校行事や生徒会活動での生徒の様子、部活動の大会結果を、ホームページなどを利用して適時配信することができたか。 (2)交流会や清掃活動など、計画段階から生徒が関わり、内容を充実することができたか。
(1)働き方改革をふまえ、業務の見直しを図るほか、職員のチームワークを高めることで事故不祥事防止に努める。 (2)災害時に迅速で適切な対応ができるように防災計画の工夫・改善を図る。	(1)ICT の活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努める。 (2)防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等により、災害時に迅速で適切な対応ができるよう地域と協働しながら整備を進める。また防災訓練等により、生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図る。	(1)ICT の活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努めることができたか。 (2)防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等により、災害時に迅速で適切な対応ができるよう地域と協働しながら整備を進め、防災訓練等により、生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図ることができたか。